

Narukyo-Kawaraban

# 鳴教かわら版 No.8



## 徳島県高等教育機関連携型

### 『ジュニアドクター発掘・養成講座』開講式を開催

平成29年9月18日(月), 鳴門教育大学において「徳島県高等教育機関連携型『ジュニアドクター発掘・養成講座』」の開講式を挙行し, 県内外の小中学校から公募により選ばれた40名の受講生が出席しました。

開講式では, 山下一夫鳴門教育大学長のほか, 来賓の飯泉嘉門徳島県知事, 泉 理彦鳴門市長, 連携機関の高石喜久徳島大学理事(教育担当)・副学長, 桐野 豊徳島文理大学長, 松重和美四国大学長, 岩佐健司阿南工業高等専門学校副校長, 美馬持仁徳島県教育委員会教育長, 安田 修鳴門市教育委員会教育長等からの受講生へのエールに対し, 受講生を代表して, 徳島県立城ノ内中学校3年の澤田杏子さんから, 講座への期待, 並びに未来への決意と抱負が述べられました。



受講生代表で挨拶する  
澤田杏子さん

## 林 芳正文部科学大臣に, 山下学長がインタビュー



平成29年12月12日(火), 第18代文部科学大臣の林 芳正大臣に山下学長がお話を伺いました。

このインタビューは, 協同出版株式会社の月刊誌『教職課程』の巻頭特集として実施されたもので, 林大臣の教育観に始まり, 教員養成大学・学部, 大学院の在り方など, 大臣の自らの体験を踏まえた教育に対する考えをお聞きすることができました。

インタビューの様子は, 『教職課程』3月号(平成30年1月22日発売)に掲載されます。

徳島県高等教育機関連携型

# ジュニアドクター発掘・養成講座

## 社会を牽引する未来の科学技術者を徳島から育てよう

### ▶ 徳島県内の高等教育機関が連携、「教える教育」から「学ぶ教育」への転換

鳴門教育大学では、徳島大学・徳島文理大学・四国大学・阿南工業高等専門学校と共に徳島県教育委員会等と連携し、社会を牽引する未来の科学技術者であるジュニアドクターを発掘・養成しています。

本講座では、理数系領域に意欲と才能を有する受講生(小・中学生)を対象に、問いの資質能力(“探る・究める・発見する”)を重視した教育プログラムを実施しています。

### ▶ 効果的な才能育成プラン

鳴門教育大学では、平成25年度より小・中学生を対象とした科学技術者の発掘・養成講座を実施し、これまでに約100名の修了生を輩出してきました。

平成29年度からは、独立行政法人科学技術振興機構(JST)のジュニアドクター育成塾に採択され、これまでの実績を活かした新規のプログラムを実施しています。

本講座は、

- ①幅広い自然科学領域におけるステップアッププログラム
- ②科学技術に関するキャリア学習や研究者との交流
- ③個の能力に応じた体系的な教育プログラムによる効果的な才能育成プランが特徴です。

### ▶ 才能を継続して伸張する取組

本講座では、受講生が自ら考え、手を動かし、広い視野から探究し、成果を伝えるコミュニケーション能力など科学技術者に求められる能力を育みます。

さらに本講座修了後も、受講生のフォローアップに取り組むことで、複数年に渡って受講生の才能を見出し、科学的な意欲・能力を伸張させます。

### 個の発達段階に応じた才能育成プラン

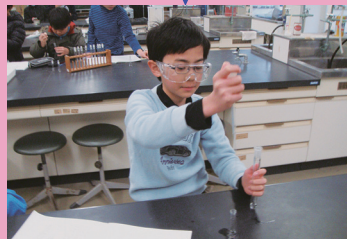
#### 一次選抜



**研究基礎コース**  
 大学基礎レベル  
 (一斉指導)  
 共通科目 (10回)  
 専門科目 (10回)



**研究標準コース**  
 大学レベル  
 (少人数指導)  
 研究標準講義  
 研究標準実験



#### 二次選抜

**研究応用コース**  
 (個別指導)  
 研究室マッチング  
 研究倫理  
 科学英語

### ジュニアドクター発掘・養成講座と受講生に寄せられる期待

開講式では、来賓の飯泉徳島県知事、泉鳴門市長をはじめ、皆様から激励をいただきました。

また、開講式後の記念講演会では、桐野徳島文理大学長から「科学の方法・科学の学び方」、松重四国大学長から「チャレンジする心ー理数・技術(情報)領域:探る・究める・発見するー」と題して講演が行われました。



(左から)  
桐野 豊徳島文理大学長  
松重和美四国大学長  
飯泉嘉門徳島県知事  
泉 理彦鳴門市長

## 第4回鳴門教育大学ホームカミングデーを開催

平成29年11月11日(土)、鳴門教育大学において、第4回鳴門教育大学ホームカミングデーを開催しました。

4回目となる今回は、約150人の卒業生・修了生等が懐かしの母校を訪れ、お互いの近況報告や思い出話に花を咲かせ、旧交を温めました。

大学院学校教育研究科言語系コース(国語)の余郷祐次(よごう ゆうじ)教授による「絵本のひみつ―絵本の知と読み聞かせの心―」と題した講演会では、軽快なテンポとユーモア溢れる語り口に、会場は幾度となく笑いに包まれました。

さらに、芸術系コース(美術)絵画分野担当の鈴木久人教授の作品展並びに附属図書館の所蔵品展など、様々な企画で参加者を歓迎し、同窓会懇親会も大いに盛り上がり、本学と卒業生、修了生の絆が深まったホームカミングデーとなりました。



大型絵本を使って講演する余郷祐次教授

## 北京師範大学と第7回中日教師教育学術研究集会を共催

平成29年12月2日(土)、3日(日)の2日間に渡り、大学間交流協定締結校の北京師範大学(中国北京市)との共催で、「教師教育の実践：モデル、カリキュラム、授業」をテーマに「第7回中日教師教育学術研究集会」を北京師範大学内の京師ホテルを会場として開催しました。

日本側からは、山下一夫鳴門教育大学長、川崎直哉上越教育大学長、福田光完兵庫教育大学長をはじめ、7大学の教職員及び学生、計28人が参加しました。

北京師範大学から钟秉林(Zhong Binglin)教授(中国教育学会長、元北京師範大学長)、李琼教授(教師教育研究所長)、鳴門教育大学から山下学長、梅津正美副学長による基調講演、そして4つの分科会において、国際的視野に立った教師教育の充実・発展について活発な討論・発表を行い、学術交流を深めた有意義な研究集会となりました。

開催期間中、北京師範大学側の周作宇副学長、鄧猛教育学部長補佐と日本側の3教育大学長が会談し、平成16年の第1回研究集会以来、これまで培った日中両国の信頼関係を基盤に、教師教育に関する更なる教育・研究分野での人的交流を積極的に推進するため、次回は3教育大学連携の下、2年後(2019年)に、神戸で開催することとなりました。

今後も大学間で連携し、日中両国の教師教育分野の学術交流を推進していきます。



(左から)  
福田兵庫教育大学長、山下鳴門教育大学長、川崎上越教育大学長



鄧猛教育学部長補佐(左)と周作宇北京師範大学副学長(中央)



## 森田洋司特任教授が学生に特別講義

平成29年11月21日(火)、本学講堂において、いじめ問題や生徒指導に関する世界的学者である森田洋司鳴門教育大学特任教授(写真:右)の特別講義「いじめ対応の基本について、今、改めて考えるべきこと」を開講しました。

本講義は、受講生のキャリアに合わせて、学部生・大学院生(ストレートマスター)向けと大学院生(現職教員)向けの2部構成で行われ、本学の学生のほか、教育関係者など約250人が聴講し、いじめ防止対策推進法への理解を深めるとともに、今後の生徒指導を行う上で大変有益な講義となりました。



## 四国大学と国立、私立を越えた大学連携を展開

平成29年10月18日(水)、学校法人四国大学との間に、連携協力協議会を設置しました。

この連携協力協議会は、平成28年6月1日付けで締結した「国立大学法人鳴門教育大学と学校法人四国大学との連携協力に関する協定書」に基づき設置されたもので、「両大学は、国立、私立を越えて密接な連携を図ることにより、新たな連携教育プログラムを構築・推進し、地域文化向上、地域産業振興に貢献するとともに、国私大学連携のモデルシステムを提起する」ことを目的としています。

今後は本協議会のもと、国家資格『公認心理師』の連携による養成、消費者教育の推進・充実、四国大学でスポーツ活動等に優れた学生のうち学校教員志望者の鳴門教育大学大学院での受入体制、教員養成の高度化連携を推進します。

なお、このことについては、11月28日(火)、徳島県庁において、松重和美四国大学長と山下鳴門教育大学長が共同記者会見を行い、各連携分野における新たな大学連携モデルの創出に期待を寄せました。



共同記者会見を行う、松重和美四国大学長（左）と山下一夫鳴門教育大学長

## 学長特別対談を実施 山下一夫 鳴門教育大学長 × 東川勝哉 日本PTA全国協議会会長

平成29年12月26日(火)、公益社団法人日本PTA全国協議会事務局を会場に、山下一夫鳴門教育大学長が東川勝哉日本PTA全国協議会会長と学長特別対談を行いました。

対談では、いじめ問題の改善に向けた取組のほか、子どもとの接し方、学校と保護者の連携など、話題は多岐に渡り、BP(いじめ防止支援)プロジェクトの協力団体である日本PTA全国協議会と連携していく上でも、非常に有益な対談となりました。

対談の詳しい内容は、本学ウェブページ及び鳴教かわら版(No. 9)に掲載予定です。

(<http://www.naruto-u.ac.jp/information/01/024.html>)



東川勝哉会長（左）と山下一夫学長

## 第3回鳴門リレーマラソン in 鳴門教育大学を開催

平成29年11月5日(日)、鳴門市との連携事業「第3回鳴門リレーマラソン in 鳴門教育大学」を開催しました。このリレーマラソンは、1チーム5~20人の仲間がタスキを繋いで、大学内に設定されたおよそ1kmのコースを40周する周回型マラソンイベントで、3回目となる今回は鳴門市市制施行70周年を記念して、過去最多となる70チーム約800人のランナーが参加しました。

本学の学生50人もボランティアスタッフとして運営を支え、大学構内が活気に包まれた一日となりました。



スタートの号砲を鳴らす 岩切健一郎理事

